

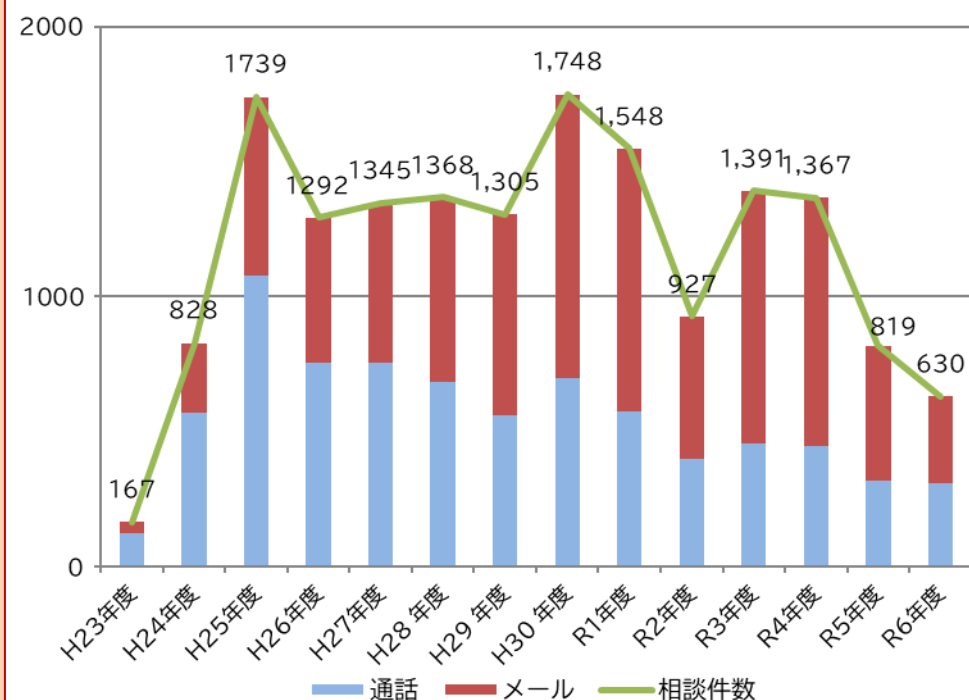
「にんしんSOS」相談実績（平成23年度～令和6年度）

※平成23年度は6か月分の集計

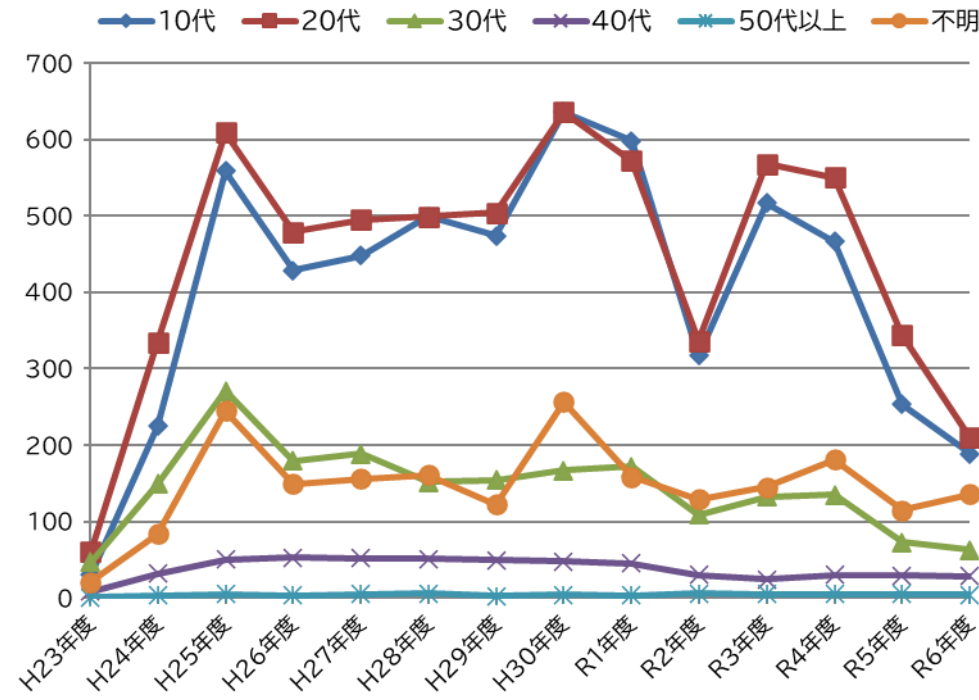
- ◆相談件数は、H25年をピークに約1,300件で推移していた。R2年度は新型コロナウイルス感染症の社会的影響が減少がみられ、R3年度に例年並みとなるが、以降減少傾向にある。H29年度からはメールでの相談が電話を上回っていたが、R6年度は概ね同数の相談件数である。近年、大阪府内からの相談割合が増加しており、全国的に相談窓口が開設されている影響も考えられる。
- ◆相談者の年齢は10～20代の若年者が多く、R6年度は10代の相談が全体の約3割、また、学生が全体の約4割を占めた。
- ◆H31年4月より日曜日にも相談窓口を開設し、さらに、R6年6月より通話料のかからないLINEコールを活用した通話相談を開始するなど、相談体制の拡充を図っている。

初回相談件数

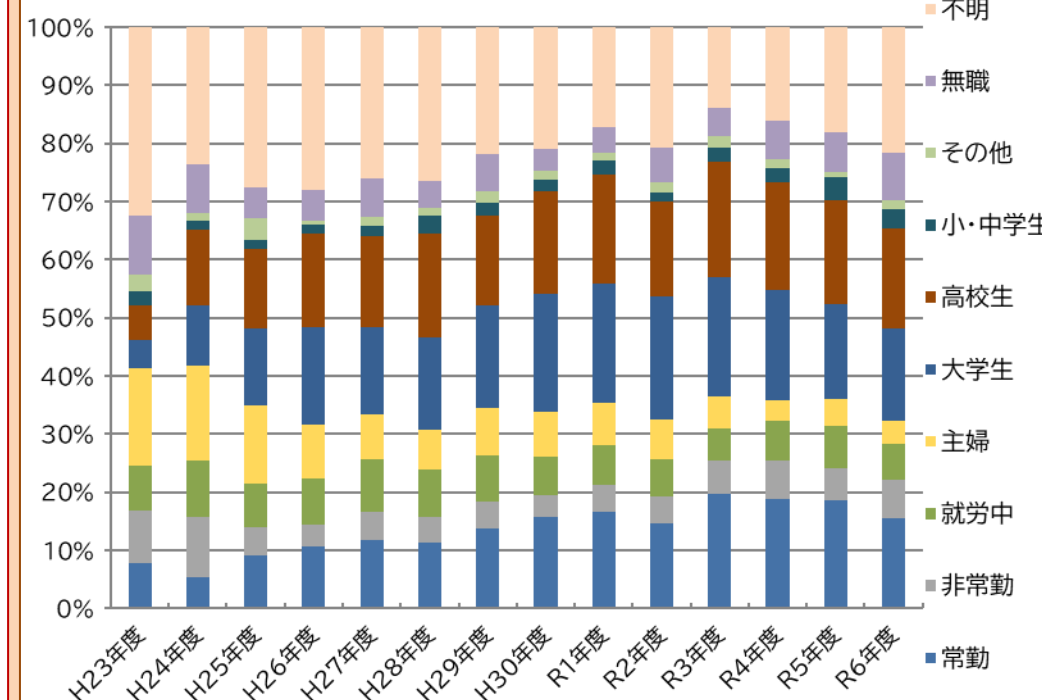
※R6年度以降、通話にLINEコールを含む



相談者の年齢



相談者の職業



令和6年度の主な相談内容

- 妊娠不安…………… 43.5%
- 産もうかどうか…………… 18.1%
- 中絶…………… 7.0%
- どうしたらよいかわからない…………… 5.4%
- 費用…………… 5.2%
- その他(緊急避妊等)…………… 20.8%

特徴

- 月経が遅れている、妊娠したかもしれない、避妊に失敗したなど、「妊娠不安」が約半数ある。このような思いがけない妊娠にまつわる悩みの背景には、家庭不和や経済的な問題、相談者自身の精神的つらさがうかがえることが多い。
- 10代の相談者からの内容は、現在の身体の変化が妊娠兆候ではないかという不安、妊娠の可能性のある行為かどうかを確認するもの等が目立つ。「誰にも相談できない」「どうしたらいいか」「助けてください」等、身近に相談者がおらず、地域で孤立している方の相談も多い。

令和6年度の主な対応

- 情報提供…………… 81.7%
- 助言等…………… 7.8%
- 受診勧奨…………… 5.9%
- 連絡…………… 1.1%
- その他…………… 3.5%

特徴

- 相談者に寄り添い、悩みに対し妊娠や出産についての正しい知識や情報を伝えている。
- 継続した支援が必要と考えられる場合は、地域の保健機関等と連携し、サービスを提供する等必要な支援に繋いでいる。

今後の対応

- 若年層に対し、教育との連携により学校への周知啓発を強化。また、公民連携企業や団体の協力を得て、店舗等への啓発チラシ設置。相談に結びついていない年代や生活層の方に、SOS相談の連絡先・情報が届き、相談につながるよう、さらなる発信・啓発方法の検討。
- 研修会等の場を活用し、学校関係者や地域保健機関、NPO等、地域で若年者を支援する機関への周知・啓発。
- 妊娠・出産・育児を通しての地域における切れ目ない支援体制づくり、地域保健機関との連携強化。